

経済産業省ヒアリング

2024年度第1四半期の切板需要動向



2024年3月18日（月）

於 経済産業省

 全国厚板シヤリング工業組合

2024年度第1四半期の切板需要動向

全国厚板シェアリング工業組合

1. 全体業況

	年度	1Q	2Q	3Q	4Q	年度平均
① 切断量	2019	143	143	131	126	136
	2020	113	110	117	119	115
	2021	128	125	128	125	127
	2022	128	129	135	125	129
	2023	127	122	123	115	122
	2024	120				
② 受入	2019	180	171	153	142	162
	2020	130	127	140	146	136
	2021	162	153	164	171	163
	2022	170	162	156	150	160
	2023	145	143	145	140	143
	2024	145				
③ 出荷	2019	170	168	157	150	161
	2020	140	136	142	145	141
	2021	158	155	156	155	156
	2022	158	161	165	155	160
	2023	155	147	149	138	147
	2024	145				
④ 期末在庫	2019	437(260)	449(267)	439(280)	414(276)	—
	2020	384(274)	356(262)	351(247)	351(242)	—
	2021	361(228)	356(230)	380(244)	428(276)	—
	2022	463(293)	466(289)	441(267)	415(268)	—
	2023	387(250)	374(254)	363(244)	369(267)	—
	2024	369(254)				

※網掛け部は、事務局推計値。単位：千ト/月平均

(前回推計値との差)	2023年度 3/Q		2023年度 4/Q	
	前回推計	今回	前回推計	今回
切断量 (千ト/月平均)	125	123	125	115
受入 (千ト/月平均)	150	145	150	140
期末在庫 (千ト)	374	363	374	369
在庫率 (%)	249	244	249	267

年度末を迎えるも、全地区全分野において需要は低迷した状態が続いている。更にはあらゆるコストが上昇していることから極めて厳しい環境であり、景況感アンケートでは過去にない景況感指数の低さとなっている。こういった環境の下、ZSKとしては、取引適正化活動を従前にも増して進めていく事は無論の事、官民連携したDX化推進による業務効率化(M/Sのデータ化・物件名廃止、受発注デジタル化)・商慣習改善を強力に進めるべく、ZSK セツサタクマ会・全国青年交流会等により各社の課題解決に向けた活動を進めている。合わせて労働力安定確保に向けた取組も加速必須であるため関係省庁・鉄鋼各社に一層のご支援ご指導を賜りたい。

3. 全国概況

(1) 概況

日本経済は、全体として緩やかな回復が続いているものの、輸出主体に減速の動きがみられ、今後の個人消費や設備投資の動きについても懸念がある。

国内鉄鋼市場を見ると、自動車部門では1月の四輪車生産が（前年同月比7.0%減）1年振りに減少に転じる結果となった。また、産業機械部門でも海外経済の回復ペースの鈍化の動きの影響が継続している。加えて、建設業も1月の非住宅着工床面積（同16.1%減）が減少する結果となった。

このような経済・需要環境下、厚板シェアリング業界に於いては、ほとんどの需要分野で需要が低迷しており、前年度を下回る仕事量が続けている。一方で、厚板母材価格は高炉材を中心に高止まりが続く中、2024年2月にさらなる価格改定が発表され、電力他用役費・輸送費・人件費等あらゆるコストも上昇している中、厚板シェア各社はより厳しい状況に置かれている。したがって、取り引き適正化の活動を一段と深化させ、早急に需要家への価格転嫁を実現させていくことが最重要課題となっている。

(2) 鉄骨

2023 歴年の鉄骨需要は前年比11.6%減し391万トンと暦年ベースでは、56年ぶりに400万トンを割り込んだ。これは、既報のとおり資材高騰等による着工延期や中止に加え、一部大型案件の図面承認遅れ等による工程のずれ込み影響が依然続いているためであり、早期に回復する動きは見られない。

また、中小案件の発注控え等も当面続くと思われるなか、全国各地で需要の下支えとして期待されている大型再開案件についても、人手不足や残業規制等がゼネコンやファブの稼働に及ぼす影響含めて、不透明感が依然強く、2023年度ならびに2024年度の需要も400万トン前後の低位が続くと想定される。

(3) 橋梁・土木

2023 暦年の鋼橋入札量実績は、前年比21.0%の大幅減となり147千トンと低位の結果となった。第3四半期以降は若干の入札量の増加が想定されているが、23年度合計では2019年度の146千トンにも届かず、過去50年で最低を記録する懸念がでている。

なお、大型案件の大阪湾岸西伸線も今年度から開札があるものの、詳細設計に相当の工期が必要となる模様で、発注の本格化は26年～27年頃になるとの声が出てきている。

(4) 建機

建機の世界需要については、新興国のインフラ・マイニング向けは引き続き堅調だが、中国の需要低迷継続に加えて、北米住宅部門の悪化や欧州の景気減速懸念も増していることから、減産の動きがあり、今年度需要は昨年度よりも1割程度減少する模様。

このような状況下、国内建機メーカー各社の生産計画も前回報告から更に減少しており、前年度比10%程度の減となる見込みである。

(5) 産機

工作機械分野については、世界経済が鈍化しており、2023年10-12月の受注金額は、内外需ともに減少しており、前年同期に比べて15%減少し、前年同期比では5四半期連続で減少する厳しい状況が続いている。需要部門別にみると、「一般機械」「自動車」「電気・精密機械」と全部門にて、前年同期を下回る結果となった。当面は、前年度と比較して低位の仕事量で推移すると思われる。

(6) 船舶・その他

新規造船商談は、全体的には引き続き堅調に推移している。しかしながら、人手不足や機器調達難等による建造ピッチが上げられない状況が続いていることから、手持ちの工事量が更に増える結果となり、国内造船メーカーは3-4年程度の仕事量を確保している模様。

こうしたなか、2023年度のマクロ需要は、前年度から微減の265万トン程度となる見通しで、2024年度もほぼ同程度の需要規模で推移する見込みである。

(7) 店売り

建築・土木関連の需要回復の動きは10月以降も依然感じられず、前述のとおり、これまで堅調であった建機関連もメーカー生産計画に下方修正の動きも続いており、高炉メーカーの価格改定の発表後も、市中の荷動きは芳しくないままで推移している。あらゆるコストがこれまで以上に上昇する中、非常に厳しい状況が続いている。

4. 地区別概況

(1) 東京

当地区の建材分野では、1月単月の6社合計での生産量（外注除き）は、前月比▼0.7千トとなり、2ヶ月連続して1万ト割れの結果となった。この要因としてはこれまでに報告してきたとおり、橋梁・鉄骨ともに仕事量の早期の回復が見込めず、今後の仕事量も当面は足元並みの9千トから1万ト程度の低位のまま推移する見込み。鉄骨の2023年度での需要量は、前年比▼12%の391万トンと暦年ベースでは1967年以来の400万ト割れを記録した。これは前年度に続く資材高騰はじめ建設コストの高騰による発注の手控えや中止、技術者・技能者の人手不足による大型案件含めた工程のずれ込み等が要因であり、今年度合計の需要量も前年度を下回り、400万トン前後にとどまるものと思われる。建機スポット仕事がほぼない。またミニ建機においては中国との価格競争になっており、現状でも20~25%の値差があるが、今後材料価格が上がるとますます生産移管される可能性が高くなる。セグメントに関しては土木関連の公共投資は堅調に推移。セグメントに関しては遅れていた関西を中心とした大型セグメントの一物件が試験製作を終えた後、春先より製作を開始する予定となっている。店売りは、切板にしる材料販売にしる、メーカーの値上げ発表があってもまるで動かない。各社目先の当用買いに徹底。見積りも少ない。良くなる要素が見つけられない。

(2) 東海

エンジンのコンプライアンス違反などにより生産停止が相次ぎその影響もあり生産量は減少傾向にある。メーカーからの値上げの話もあり、2024年の配送問題等により輸送費コストも上がる事もあり、各社価格維持に必死な状況が続いている。在庫状況は概ね適正では有るものの、今年夏に電炉メーカーの電炉入れ替えもある事から多少の積み増しを検討しているシャーも見受けられた。建材分野は、ファブの低い稼働に反映して7~8割程度の仕事量になっているところが多く、また、ファブの仕事量により稼働の山谷差が激しくなっている。来年度上期についてもファブの山積みが高いため、当面、現状の稼働を維持すべく受注確保に苦慮している。加えて、物件の遅れが顕著になっており、小口、短納期対応を迫られることが多くなっている。

(3) 大阪・神姫

建設業は、需要はあってもコスト高に人手不足もあり製造できない状況が今後も続くと思われる。シャリング業のような中小企業にとって、価格転嫁の遅れ、賃上げ対応の遅れ、人手不足による生産減など業績不振懸念が大きく、切板需要が低調のなかシャリング業界にとっては2024年度上期は特に厳しい状況になると予想される。建機分野は、2023年は調整局面となり、建機メーカー・機種により繁閑の差はあるが、切板需要は総じて低下している。

(4) 九州

23年度3Qの建築は上期の状況から変わらず図面・設計承認等に時間を要しており、当初の工程より数カ月から半年近く後ろ倒しとなっているものもあり、ファブは工程の調整を余儀なくされ切板等関連の鋼材需要は低調に推移している。一方で、一旦リストが出ると依然として短納期の切板要望も多く、外注シヤへの加工委託等想定外のコストが重くのしかかり、値差縮小や収益率の低下を招いている。中小案件も案件数が非常に少なく、状況は改善していない。九州地区産の業機械分野は、3Qも引き続きEVや半導体関連の設備投資需要は底堅く、関連の鋼材需要も堅調に推移している。一方、店売り・切板は中小建築案件の需要低迷継続、大型案件の遅れの恒常化で荷動きは依然芳しくなく、価格も引き続き上伸力に欠けており販価転嫁には引き続き苦戦している状況。

(5) 北海道

鉄骨需要量は、基礎データとなる建築統計から推計した2023年1～12月合計102,350トンを、前年実績113,938トんに比べ10.17%減少した。北海道機械工業会鉄骨部会がまとめた同期の共同積算数量（カバー率約85%）も、計83,145トンを前年実績は98,205トンを、2年連続10万トンを下回り15.33%減少した。2023年度の鋼橋梁向けの加工数量は前年度を若干上回り、補正およびゼロ国発注分も順調に消化された。建築向けは遅れ気味だった、札幌都心部や本州物件向けなどの加工が一段落、道内中小物件も少なく、冬場閑散期、低操業を余儀なくされている。加工内容は、相変わらず板比率の低い案件が大半で、受注ロットも少量多品種・小単重、型や異型が多いことから生産性は極めて低い。従って地域5社の稼働率は加工状況に格差がみられ、平均60～70%の稼働で前年度に比べ全体的に低調である。

(6) 東北

東北地方は市場の低迷感が継続する中、先行きの見通しも暗い。シヤ各社の足元の稼働状況については、一社を除きほとんどの業者はほぼ50～70%程度の状況が続く。大型公共工事案件もあるが、仕事が東北地区の業者に落ちてこず、地元案件が地場の業者でこなせない場合もあった。一部エリアでは来春以降の地場の中小物件の見積もりが若干増えているようだが、全体的な盛り上がりにはまだ遠い感がある。しばらくの間、東北地方は他エリアの物件頼りといってもいい状況が続く傾向は変わらない見通しだ。12-1月は50～60%に落ち込んでおり今後も状況は変わらないだろうという声や、平均すれば70%程度だが仕事が全くないときもあるという声もある。4月以降はさらに稼働状況は悪化するという声もある。全体的な切板需要が大きく増える見込みもなく、低迷した状況がこのまま続いていく見通しだ。

(7) 新潟

新潟県の着工統計による2023年度の推定鉄骨量は5.4万トンと昨年対比90%で推移、特に11月以降に大きな落ち込みが見られ、足元も少ない状況が続いている。主な工事としては、イオン系のショッピングモールや物流倉庫、工作機、半導体などの工場棟、学校などの学習施設となっているが、数量的には物足りなさを感じる。大手の鉄骨ファブは1年程度の受注残を抱えている。ただ、関東圏の物件を主体としたものであり、ユーザーによっては、足元の山積が少ないところも見受けられる。Mグレードファブは4～5か月の受注残となっており、大手ファブの下請けや、商社鉄骨を手掛けるところはまだあるが、地場物件を主体に手掛けるところは、手待ちや遊びが出ているところもあるようだ。県内シヤリング業各社の稼働率の報告では、80～90%と変わらないものの、建築案件の減少や小型化に加え、店売り分野での落ち込みが大きく、切板の数量的には減少してきているように感じる。また、ユーザーが足元の仕事が薄いなどの理由で、切板を短納期で発注することが増えており、本来必要のない残業を行っているところもある。

(8) 中国

地場大型物件はほぼ終了、製造業は盛り上がりない。各社の稼働は、引き合い件数、仕事量は低位、減少傾向にある。加工業者自体の受注量が落ちており、引き合いも減。年度末に向けての駆け込みと人手不足分の発注に期待しつつ、出図や設計・施工の遅れで注文は短納期・小LOT・小単重・高工数の注文を拾い集め継続している。需要は全体的に不透明である。自動車・建機は国内・輸出とも堅調（悪くはないがいいわけでもない）。今のところ材料・部品調達に問題はない。下請け・納入業者は在庫調整の目途がたつ夏以降の増産に期待している。建築分野では減ったとはいえ今のところ中心はやはり東京再開発案件。地場では足もとめぼしい案件なしの状況である。鋼材価格・諸経費値上げ・人手不足は変わらずファブの足かせになっている。S・Hファブと中堅以下のグレードファブではいまだ仕事量に濃淡があるようだ。

以上

5. 課題と取り組み状況

★：今回追加情報

5-1. 外国人特定技能制度に関して

- ・ 外国人受入の対策に関して、「当組合の総務委員会が中心となり、既存制度と本制度について調査し、今後の対策を検討する」として、理事会および通常総会に於いて承認を頂き、制度説明会への参加や経済産業省殿からご指導頂くなど活動している。
- ・ 製造業特定技能外国人受入れ協議・連絡会への加入や、2020年からは行政書士との顧問契約締結（2020年～至現在）分野追加または職種追加に向け体制の強化を図っている。
- ・ 外国人受入については加盟企業からの異論はなく、具体的な方策については総務委員会で検討している。

< 経済産業省殿からの依頼に対する対応 >

(1) 外国人材雇用に関する緊急アンケート実施

- 組合員への依頼：2022/3/10、経産省への提出：2022/4/27
- 結果：107/152社 提出率：70%
- 調査内容
 - ・ 従業員数・女性従業員数、高齢従業員数の推移（2015年度末～2021年度末）
 - ・ 技能実習生（1号～3号2年目）の受入人数推移（2019年度末～2021年度末）
 - ・ 当該制度の活用の調査（2020年度末～2021年度末）
 - ◇ 特定技能制度活用希望、特定技能受入見込、現技能実習生からの移行
- 2021年度末(2022.3末)の回答
 - ・ 従業員数(7,628名)、女性従業員数(1,248名16.4%)、高齢従業員数(908名11.9%)
 - ・ 技能実習生受入数(合計112名)
 - ◇ 1号(18名)、2号1年目(44名)、2号2年目(88名)、
3号1年目(36名)、3号2年目(10名)

(2) 「人材不足状況に関する調査」の対応

- 経産省からの協力依頼：2022/11/25、経産省への提出(2022/12/6)
- 主な提出内容
 - ・ 業界の人材不足状況に関して詳細に法務省へ説明できるよう調査依頼あり
 - ・ 概ね次の内容を纏めた。
 - ◇ 人材が不足している「工程」に関する詳細情報（作業風景写真付き）
 - ◇ 人材不足の解消にむけた行動
 - ◇ 外国人実習生の活動状況

(3) 要望書提出（特定技能の分野追加）

- 経産省からの協力依頼：2023/5/15、経産省への提出(2023/6/1)
- 依頼内容：法務省との調整やその先のプロセスにあたり、業界全体で分野追加を要望していることを示すエビデンスが求められる可能性もあるから、正式な要望書のご提出を検討頂きたい。

(4) 外国人の受け入れ必要人数提出 (特定技能)

- 経産省からの協力依頼：2023/9/14、経産省への提出(2023/9/21)
- 依頼内容：有識者会議での議論を踏まえ、分野追加の議論にあたっては明確な根拠を求められるという話もあり、具体的な人手不足数や特定技能外国人が従事する業務等についてお伺いしたい。

(5) 「特定技能2号」協力依頼

- 経産省からの協力依頼：2023/10/13、経産省への提出(2023/10/17)
- 依頼内容 「特定技能2号」のご希望や、もし追加された場合に特定技能2号の方が従事する作業等についてお伺いしたい。①「特定技能2号」の対象分野への追加も希望されるか。②熟練した技能を有する「特定技能2号」の外国人を受け入れる必要性③「特定技能2号」の外国人が従事する具体的な業務内容

(6) 「特定技能2号同時申請に関する確認」依頼

- 経産省からの協力依頼：2023/11/8、経産省への提出(2023/11/14)
- 依頼内容 特定技能1号だけでなく2号への分野追加についても議論が動いているところですが、今回新たに1号への追加が検討されている分野をまとめて1号とセットで2号への追加を目指すという流れにはなく、2号への追加を希望するかは各分野で判断する形になっている。同時に申請するか否かの判断と、申請する場合に、2号に関して、2号の求める人物像（熟練工、マネジメント能力、ゆくゆくは工場長）が5年後足りなくなるといいう話では足りず、足下すでに国内人材だけでは熟練工や管理者が不足していて危ない状態であることを示すようなデータ（例えば5年前と比べて管理職が減っている等）が必要となる。

★ (7) 「生産性の向上と人材確保の状況に関する確認」依頼

- 経産省からの協力依頼：2024/1/12、経産省への提出(2024/1/15)

★ (8) 「人手不足数及び業界特有の求人サイトについて」依頼

- 経産省からの協力依頼：2024/1/29、経産省への提出(2024/1/31)
- 人材不足状況/国内人材確保の取組み/特定技能外国人に想定する業務内容および必要な専門性に関する状況

- ・ 当組合では、多くの企業において技能実習生を雇用しており、実態としては人手不足軽減のために技能実習生に頼っているところもあります。技能実習制度受け入れの本来の目的は理解しているものの、今後は、ビジネスと人権の観点からも、技能実習制度の縮小が考えられますため、新たなる分野追加も含め特定技能制度が拡大・充実して行き、国内人材不足の解消につながることを期待しております。

< 今後の進め方 >

- 2023年度中に分野もしくは職種追加が実現できるよう製造業特定技能外国人受入れ協議・連絡会に参画し情報の入手に努めるとともに、経済産業省殿からの協力依頼に対して、行政書士を介して適切かつ迅速にお応えする。

5-2. ミルシート関連に関して

(1) 物件名の廃止に向けた取り組み

需要家団体である「鉄骨建設業協会」・「全国鉄構工業協会」と ZSK 東京支部/規格建材部会でWG（ミルシート 表記改善 WG）を結成し、ミルシートへの需要家名・工事名の記載を廃止すべく検討会を実施。WG は全 8 回開催の内、2021 年度は 5 回実施し、日本建築構造技術者協会（JSCA）も交えて議論。

< 2020 年度活動 >

第 1 回 WG (2020/3/3)、第 2 回 WG (2020/7/15)、 JSCA 訪問 (2020/8/15)、
第 3 回 WG (2020/10/27)、第 4 回 WG (2021/1/26)

< 2021 年度活動 > 第 5 回 WG (2021/5/25)、第 6 回 WG (2022/1/12)、

事前打合せ (2022/1/28)、第 7 回 WG (2022/2/18)、第 8 回 WG (2022/3/11)

< 2022 年度活動 > 鉄骨建設業協会との協議 (2023/2/16)、(2023/2/28)

※第 8 回 WG の後、鉄骨建設業協会が JSCA に訪問し最終の申入れ実施。(2022/3 末)

- 物件名の廃止に伴い、JSCA からの要望として、鋼材の品質証明の確立が求められた。これに対し、次の点の検討を進める。
 - ◇ 重要度ランクの定義、書類定義・構成、エキストラ体系
 - ◇ トレーサビリティのルール化、見積～歩留・ロス反映、余材管理方法を取りまとめる。
- JSCA (常木会長) から、「工事名/ファブ名が記載されなくても施主の権利が侵害されることがないことを、設計から施主に説明する資料を作る必要がある」との意見があり、鉄骨建設業協会に対して、東京支部/規格建材部会のメンバーを中心に対応中。
- 2022 年度は、東京支部/規格建材部会と技術委員会のメンバーからなる新たな組織で本件の対応を行う方針である。
- 2022 年 7 月から鉄骨建設業協会は、大手ゼネコンを対象に「ミルシートの記載省略等合理的な鋼材管理」の陳情活動を開始した。
- 鉄骨建設業協会の今年度 (6 月予定) の JSCA への陳情項目の中に、鋼材の所有権に関する明確な説明を追加頂くよう協議した。
- 鉄骨建設業協会会長に現状説明を実施。JIPDEC 坂下常任理事及び日新シャーリング/政清常務、ZSK 事務局/染宮が訪問した。鉄骨建設業協会側の取組を確認。10 月以降、ZSK が鉄骨建設業協会に正式に申し入れを要請する方向とした。(2023/9/11)
- ZSK 取組み及びデジタル庁事業の説明を鉄骨建設業協会に実施 (2023/12/8)

(2) ミルシートの電子化に向けた取り組み

- 鉄鋼流通 4 団体 (全国鉄鋼販売業連合会、全国コイルセンター工業組合、全国特殊鋼流通協会、ZSK) および日本鉄鋼連盟とのミルシート電子化に関する会議を実施
 - ・ 流通 4 団体/第 1 回 (2020.11/16) 各団体の考え方の確認
 - ・ 流通 4 団体/第 2 回 (2021.4/6) ZSK が考えるミルシートの電子化
 - ・ 中小企業庁/村上部長 第 1 回意見交換会 (2021/6/21) 鉄鋼業のデジタル化
 - ・ 流通 4 団体/第 3 回 (2021.10/14) 上記 4 回の打合せ 鉄鋼連盟への要請文書
 - ・ 鉄鋼連盟 情報化委員会/第 1 回/説明会 (2022/1/17) 鉄鋼 EDI 概説
 - ・ 鉄鋼連盟 情報化委員会/第 2 回/説明会 (2022/2/25) 鉄鋼 EDI 操作説明・意見交換

- 鉄鋼連盟 情報化委員会/第3回/説明会(2022/9/6) 鉄鋼 EDI 意見交換
- 鉄鋼連盟 情報化委員会/第4回/説明会(2023/5/30) 鉄鋼 EDI 意見交換
- 鉄鋼連盟 情報化委員会/第5回/説明会(2023/12/5) 鉄鋼 EDI 意見交換
- ★ ● 鉄鋼連盟 情報化委員会/第6回/説明会(2024/1/30) 鉄鋼 EDI 意見交換
- 鉄鋼連盟 情報化委員会/第7回/説明会(2024/4/16) 鉄鋼 EDI 意見交換 <予定>

- ミルシートに対し「紙から PDF」「検索情報の発信と利用」の重要性は共通の認識。
- 鉄連見解:「高炉メーカーから大手商社に対しては PDF の提供はできている。ZSK 組合員が PDF ファイルを必要な場合は、各社が個別に確認依頼して欲しい」
- ZSK 組合員に対し、ミルシートでの電子化に関するアンケートを実施(2023/7/3)。集計結果を機関誌 8 月号で報告するとともに、2023/8/28 実施のデジタル庁との意見交換会で報告。

★ ● 第6回説明会にて、今後、鉄鋼 EDI に関する説明会の実施を検討することとした。

5-3. 受発注のデジタル化に関して

(1) 経産省・中企庁・デジタル庁主催の「産業連携基盤」構築に向けた研究会、WG および分科会に参画

鉄鋼業界、電機工事・電材卸売業界、流通業界が先行の3業種として選定され、受発注のデジタル化実証に向けたデータ連携基盤の整備方針の策定を行った。WG では業務課題を洗い出し、その結果を受けて研究会にて整備方針を取り纏めた。

研究会 (研究会メンバー: 石原理事長、染宮事務局長)

第1回研究会(2021/12/8) ・ 第2回研究会(2022/2/24) ・ 第3回研究会(2022/3/25)

WG (WG メンバー: 政清委員、染宮事務局長)

第1回 WG(2021/12/21) ・ 第2回 WG(2022/2/7) ・ 第3回 WG(2022/3/18)、第4回 WG(2022/3/25)

ミルシート 分科会(2022/2/9)

- 活動報告「中小企業の受発注のデジタル化推進方策に関する調査」は中企庁 HP に公表(2022/3/31)
- ミルシートに関しては、産業連携基盤から独立した検討会をデジタル庁が中心となって 2022 年度に設置し進めていく方針となった。

(2) 研修会およびセミナーによる組合員への啓蒙活動

受発注のデジタル化に係る講演を行った研修会ならびにセミナーは次の通り

- 第3回 ZSK 技術セミナー (2022/11/10@浦安鉄鋼会館、参加者 100 名)
 - ◇ デジタル庁/村上統括官 「データスペースエコノミーの描く未来」
 - ◇ 三菱商事 「ミルシート電子化プラットフォーム Mill-Box」
- 講演内容は、Youtube にて ZSK 組合員に限定配信

(3) 電子受発注システム普及促進に向けた実証調査事業に参画

2021 年度から中小企業庁が進めてきた事業は、2022 年度では実証調査事業の段階に進んだ。ZSK は、21 年度に引き続き、産業基盤連携における業界固有の取引項目の整理及び業界内実証を行うべく研究会に参画。

- 研究会 (メンバー: 石原理事長)
オブザーバー: 加藤/JFE 鋼材常務、加藤/河合部長、染宮事務局長
第1回連絡会議(2023/1/23)、第2回連絡会議(2023/2/21)、第3回連絡会議(2023/3/17)
- 分科会 (メンバー: 政清委員)
オブザーバー: (加藤/JFE 鋼材常務、加藤/河合部長、染宮事務局長)
第1回分科会(2023/2/1)、第2回分科会(2023/2/8)、第3回分科会(2023/2/15)、
第5回分科会(2023/3/1)
- 実証実験: JFE 鋼材東京事業所にて(2023/3/9)、日新シャーリング茨城工場と実証実験実施
※ 実証ケース: 同業者間(A社→B社)のデータ連携
参加: デジタル庁、経済産業省商務情報政策局情報経済課、情報処理推進機構、
EY ストラテジー、グローバル、三菱商事
- 事務局連絡会議: (メンバー: 染宮事務局長) WEB 会議による実施 毎週火木 10:00~10:30
- 企業間取引将来ビジョン検討会(メンバー: <東京支部規格建材部会>日新シャーリング/政清常務)
内容: 産業デジタル戦略及びサプライチェーンデータ連携基盤ガイドライン
第1回(2022/11/7)、第2回(2022/12/13)、第3回(2023/2/7)、第4回(2023/5/9)

(4) デジタル庁が進める電子受発注システム普及促進に向けた事業への参画

2023年度の事業は、中小企業庁からデジタル庁に管轄が移り事業を進めていく計画である。ZSKは、引き続き事業に参画させて頂き、受発注のデジタル化の普及に向け活動する。

- ★ デジタル化を進めるにあたり、川上(鉄鋼連盟)川下(JASCA, ゼネコン等)を含めて進める必要がある。
 - 石原理事長がデジタル庁へ訪問し、村上統括官と意見交換を実施 (2023/6/7)
 - 前年度は同業者間での実証だったが、今後は需要家を巻き込んでのデータ連携の実証が必要であり、そのためには、データ辞書の整理を早急に行わなければならない。
 - 2023年度デジタル庁予算事業に関する意見交換会に JFE 鋼材/加藤常務及び事務局が参加(2023/8/28)
 - 2023年度デジタル庁事業キックオフ (2023/12/7)
 - 「産業領域におけるデータ連携基盤等の実証調査連絡会議」第一回実務者会議出席
出席: 石原理事長(JFE 鋼材/社長)、加藤 DX 推進部会長(JFE 鋼材/常務)、
政清 DX 推進部委員(日新シャーリング/常務)、染宮事務局長
 - 2023年度デジタル庁事業への鉄骨建設業協会の協力依頼 (2023/12/8)
 - 鉄骨建設業協会に対し、デジタル庁事業の説明と事業への協力依頼
出席: 政清 DX 推進部委員(日新シャーリング/常務)、染宮事務局長、JIPDEC, EY
- ★ ● 2023年度デジタル庁事業 / 連絡会議
 - 第2回連絡会議(2024/1/15 石原理事長、加藤 DX 推進部会長、政清委員、染宮)
 - 第3回連絡会議(2024/1/23 加藤 DX 推進部会長、政清委員、染宮)
 - 第4回連絡会議(2024/2/21 加藤 DX 推進部会長、政清委員、染宮)
 - 第5回連絡会議(2024/3/13 石原理事長、加藤 DX 推進部会長、政清委員、染宮)

- ★ ● 2023年度デジタル庁事業 / 実証実験 (ミルシート電子化)
 - 川田工業 (+) JFE 鋼材 (+) 日新シャーリング
- ★ ● 2023年度デジタル庁事業 / 共通辞書検討
 - (2024/3/11 @ JFE 鋼材)
 - EY から提示された鉄鋼 EDI データを元にした活用確認シートを作成
- ★ ● 2023年度デジタル庁事業 / ビルダー勉強会
 - 厚板シャーリング業にシステムを提供しているベンダーに対して、デジタル庁事業の説明と組み込み技術の勉強会を実施
 - 第1回 (2024/1/15 @ EY 大新技研・FieldOne, シグマテック、Takesoft)
 - 第2回 (2024/2/28 @ EY 大新技研・FieldOne, シグマテック、Takesoft)

5-4 カーボンニュートラルに向けた施策に関して

ZSK 全体で、CO2 排出量・エネルギー原単位 (ガス・電力)・紙消費量・製品歩留に関する現状分析と低減に向けた取組方針案を纏める。

- (1) 生産性の改善・・・設備 (ファイバーレーザ)、機動運用、IT 化 (システム化)
- (2) 無駄の低減・・・歩留向上 (ミルシート 表記改善、品質証明体系)
紙の削減 (ミルシート電子化、受発注のデジタル化)
- (3) グリーン化・・・太陽光発電利用、ガス源水素化

企画青年部会主催の全国青年交流会 (2022/10/25 @博多) および技術委員会主催の ZSK セミナー (2022/11/10 @浦安鉄鋼会館) において、テーマとして取り上げた。

5-5 組合活動の活性化

- (1) WEB 会議等の活用による本部～各支部間、各支部同士の交流
- (2) 第2回企画青年部会 (2021/4/22) を WEB 会議にて実施し、コロナ禍が沈静化していない中で、全国青年交流会を、安全かつ魅力ある行事にすべく企画になるよう検討を開始した。
 - 第3回 (2021/11/29@鉄鋼会館)、第4回 (2022/3/2@博多)、第5回 (2022/5/20@東京)、第6回 (2022/7/5 神戸)
- (3) 第47回通常総会 (2022/5/20 @ 東京/グランドニッコー台場) 実施。(改選)
 - 第48回通常総会 (2023/5) は、広島で開催する方向で検討中。
- (4) 支部総会：九州 (2022/4/8)、東海 (2022/4/8)、大阪 (2022/4/15) をリアル開催、東京は書面開催 (2022/4/28)。
- (5) 北海道支部との本支部懇話会を実施 (2022/8/29)。
- (6) 東海支部セミナー (2022/10/19 @ 安保ホール) に於いて、石原理事長による「厚板シャーリング業界におけるこれからの重点課題」を講演。
- (7) 第3回鉄人フォーラムを博多ニューオータニで実施。(2022/10/25) 参加者 68 名。
テーマ：「未来と向き合う」～時代と共に環境が激変する現在、鉄屋が考える事とは～
グループ討議テーマ：
 - ①カーボンニュートラルへの取り組み ②人材の採用、育成、定着 ③品質と安全を守る
 - ④会社の歴史と事業の承継 ⑤10～15 年後を想像して今取り組むこと ⑥大きなリスクに備える

- (8). 第7回企画青年部会(2023/3/8 @ 博多ニューオータニ) : 次年度活動方針及び第4回鐵人フォーラムの方針を検討
- (9). 技術委員会 (23年度第1回(2023/5/11, @日鐵神鋼シャーリング)
(23年度第2回(2023/6/2, ハイブリッド))
- 議題 : 2022年災害統計調査報告、ZSK セッサタクマ会 (2023.12 @浦安 予定)
- (10). 第8回企画青年部会(2023/6/8@日本プレスセンター) 次年度の部会体制及び第4回鐵人フォーラムの再検討。 現状案 (2024/2/14 フォーラム : @沖縄/沖縄県自治会館、 懇親会 : @ダブルツリーBy ヒルトン首里)
- (11). 北海道支部での本支部懇話会をマルキンサトーにて実施 (2023/8/25)。当日、(株) NICHIJ0 及び阿部鋼材の発寒工場を見学。
- (12). 第9回企画青年部会(2023/9/13@鉄鋼会館)
次年度の部会体制及び第4回鐵人フォーラム企画案を議論。フォーラムのテーマは、前回同様。
- 事前アンケートを実施し、参加者の問題意識を事前に把握 (2023/10/20 締め切り)

★ (13). 第3回 ZSK セッサタクマ会技術討論会 (2024/1/22@浦安鉄鋼会館)

- 人材育成をテーマに、事前アンケートで集計したシャリング業の実態を発表し現状の確認と課題を議論した。
- 参加者 : 27社64名 アンケート協力社数 : 41社
- 人材育成講話
 - 「強固な現場力を生み出すトヨタ式人材育成とは」
 - ◇ OJT ソリューションズ社
 - 「人材育成研修プログラムについて」
 - ◇ 日鉄総研(株) / ビジネスソリューション事業部

★ (14). 第12回全国青年交流会/第4回ZSK鐵人フォーラム(2024/2/14@沖縄県市町村自治会館)

- グループディスカッションテーマ
 - ①カーボンニュートラルへの取り組み /②人材の採用、育成、定着 /③品質と安全を守る/④会社の歴史と事業の承継/⑤10~15年後を想像して今取り組むこと/⑥大きなリスクに備える
- 参加者 : 48名

(15). 令和6年能登半島地震被災地への義援金

- ★ 令和6年1月に石川県能登半島地方で発生した地震災害により、各県に甚大な被害をもたらしたことから、全国厚板シャリング工業組合は組合員に義援金を募集し、77社からお預かりした643万円全額を日本赤十字社の「令和6年能登半島地震災害義援金」として次の通り寄付した。

2024年2月21日 日本赤十字社にて贈呈式 石原理事長

★ (16). 第1回事業委員会 今年度より発足 (委員長 : 牧内副理事長)

開催日 : 2024年3月6日 15:00~ @鉄鋼会館

内 容 : 次年度活動方針確認及び全国青年交流会収支確認と企画青年部会次年度体制確認

5-6 災害統計調査

- (1). 2020年度より技術委員会の下、安全分科会を発足させ、安全に関する継続的な統計調査、労働災害情報の収集を実施した。
- (2). 溶断業界における災害件数、度数率、強度率、災害類型等の傾向や動向の情報を収集し、それらを定期的(毎年1回)に公表することで、組合員各社の安全に関する改善、災害への未然防止に役立てていただくことを目的とする。
- (3). ZSKとして、初めての大規模な災害統計調査となり、有効調査対象は最終的に88社と全組合員の半数以上の協力が得られた。安全分科会から調査結果報告が出され、災害事例と共にZSKホームページに公開(2021.7.13)
- (4). 2021年度に関する調査は、2022/1/14から開始し2022/3/末に集計。全産業の統計結果と摺合せを行い、第3回ZSK技術セミナーにて報告。機関誌及びHPへ掲載。
- (5). HP 労働災害事例を更新(全67事例) ※ www.tekkoo.jp/zsk
- (6). 2022年度に関する調査を開始(2023/2/22 2022年のアンケート発送、2023/3 末締め切り)
- (7). 2022年度の集計結果を掘主査が技術委員会(2023/5/11)で報告。全国産業との比較が完了した時点で機関誌(2023/11月合計掲載) および HP に掲載(2023/6/22)
- (8). 2022年度統計事例(新規47件)は、安全分科会で取りまとめ作業を行い、2024年1月にHP掲載

5-7 その他

- ★ (1). **鉄鋼流通6団体合同新年の集い**
- **2024年1月12日(金) 17:00開催: 全国鉄鋼販売業連合会が幹事団体**
 - **実施 参加者670名**
 - **2025年は、2025年1月10日(金) 17時よりロイヤルパークホテル(水天宮)にて開催予定**
全国厚板シェアリング工業組合が幹事団体
- (2). **第48回通常総会**
- 開催日時: 2023年5月26日(金) 16:00
 - 開催場所: グランドプリンスホテル広島
 - 出席者数: 総会(総数161名のうち133名出席(内訳 本人出席58名、議決権行使書による出席75名)
懇親会(総数112名(組合員78名、賛助会員29名、新聞社他5名))
 - 議案:
 - [第1号議案] 第48期事業報告(2022年度)について
 - [第2号議案] 第48期決算報告について および 監査結果の報告
 - [第3号議案] 役員の内退に伴う補欠選任
 - [第4号議案] 第49期事業計画(2023年度)について
 - [第5号議案] 第49期予算について
- 全ての議案が可決承認された

★ ※ 第49回通常総会. (改選) 予定

通常総会 : 2024/5/24 15:00~16:30 @ 北海道経済センター

ZSK 懇親会 : 2024/5/24 17:30~19:30 @ 札幌グランドホテル

(3). 実態調査実施 (需要動向等。隔年実施)

- 第25次実態調査
 - 調査依頼発送 (2023/6/28) アンケート×切 (7/末)
 - 公表/機関誌 11月号に同封 (2023/11/30)

■中国からの厚板の輸入推移表

年度	普通鋼		合金鋼		普通+合金
	量 (千ト/月)	価格 (千円/ト)	量 (千ト/月)	価格 (千円/ト)	量 (千ト/月)
2013年度 Ave.	5.4	57	11.7	58	17.1
2014年度 Ave.	11.6	58	22.4	57	34.0
2015年度 Ave.	5.6	47	27.9	42	33.5
2016年度 Ave.	3.8	37	26.6	42	30.3
2017年度 Ave.	2.1	90	11.2	112	13.1
2018年度 Ave.	1.49	95	18.9	69	20.5
2019年度 Ave.	2.19	77	18.8	58	20.9
2020年度 Ave.	0.18	27	11.1	66	11.3
2021年4月	0.003	110	22.8	79	22.8
5月	—	—	7.3	82	7.3
6月	0.01	42	4.7	109	4.7
7月	0.001	296	0.6	132	0.6
8月	2.42	116	7.0	117	9.4
9月	0.1	123	5.0	118	5.1
10月	3.32	127	6.4	121	9.7
11月	—	—	0.7	187	0.7
12月	0.056	118	2.2	125	2.3
2022年1月	0.022	46	0.1	406	0.1
2月	0.105	109	4.6	114	4.7
3月	0.07	94	3.2	128	3.3
2021年度	0.51	98	5.4	143	5.9
4月	0.002	153	3.9	104	3.9
5月	0.024	128	0.4	195	0.4
6月	2.404	119	0.2	369	2.6
7月	—	—	0.1	658	0.1
8月	0.076	112	1.3	137	0.4
9月	1.147	114	0.1	359	1.2
10月	3.224	94	0.4	147	3.6
11月	5.956	97	1.6	109	7.6
12月	0.116	81	0.9	123	1.0
2023年1月	2.104	80	0.05	476	2.1
2月	8.873	78	0.09	219	8.9
3月	1.143	94	2.1	97	3.2
2022年度	2.098	105	0.93	249	3.0
4月	0.111	100	0.09	341	0.2
5月	0.172	98	0.09	316	0.2
6月	0.002	121	0.06	385	0.1
7月	1.188	91	0.14	166	1.2
8月	0.088	99	0.074	406	0.2
9月	7.4	90	1.1	102	8.5
10月	1.2	91	0.08	314	1.3
11月	5.8	81	0.02	713	5.8
12月	0.042	104	0.47	148	0.5
2024年1月	0.121	98	0.11	539	0.3



■韓国からの厚板の輸入推移表

年度	普通鋼	
	量(千トン/月)	価格(千円/トン)
2013年度 Ave.	38.1	61
2014年度	36.3	64
2015年度	38.7	54
2016年度	43.2	48
2017年度	50.7	59
2018年度	36.2	69
2019年度	32.4	69
2020年度	40.7	60
2021年4月	40.1	63
5月	26.9	69
6月	36.1	75
7月	28.8	78
8月	22.8	98
9月	39.8	105
10月	35.4	110
11月	35.1	111
12月	28.8	114
2022年1月	37.4	110
2月	25.3	110
3月	30.9	110
2021年度	32.3	96
4月	33.8	108
5月	—	—
6月	25.5	119
7月	27.4	127
8月	29.7	130
9月	25.6	125
10月	29.4	123
11月	24.7	119
12月	23.5	119
2023年1月	34.7	114
2月	22.6	110
3月	38.5	108
2022年度 Ave.	28.6	118
4月	34.9	105
5月	30.9	107
6月	35.7	112
7月	27.5	114
8月	31.3	112
9月	32.4	109
10月	27.7	108
11月	30.4	107
12月	35.5	108
2024年1月	32.3	107



ZSK景況感アンケート(2024年3月) 集計結果

今回(2024年3月)に実施した景況感アンケート結果

前回(2023年12月)に実施した景況感アンケート結果

前回(2023年9月)に実施した景況感アンケート結果

前回(2023年6月)に実施した景況感アンケート結果

- アンケート実施時期 2024年3月
- 回収率 63% (101社 / 161社)
- 集計結果 (全国)

(3) 10-12月の状況と足元(1-3月)の景況感

回答	回答数	回答比率	景況感指数
A 良くなった	0	0%	30
B 若干良くなった	4	4%	
C 同レベル	36	36%	
D 若干悪くなった	36	36%	
E 悪くなった	25	25%	

(3) 7-9月の状況と足元(10-12月)の景況感

回答	回答数	回答比率	景況感指数
A 良くなった	3	3%	47
B 若干良くなった	22	22%	
C 同レベル	40	41%	
D 若干悪くなった	28	29%	
E 悪くなった	5	5%	

(3) 4-6月の状況と足元(7-9月)の景況感

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	3	3%	45
B 若干良くなった	18	18%	
C 同レベル	44	43%	
D 若干悪くなった	28	27%	
E 悪くなった	9	9%	

(3) 1-3月の状況と足元(4-6月)の景況感

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	2	2%	44
B 若干良くなった	17	16%	
C 同レベル	48	46%	
D 若干悪くなった	29	28%	
E 悪くなった	9	9%	

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて

回答	回答数	回答比率	景況感指数
A 良くなった	1	1%	29
B 若干良くなった	7	7%	
C 同レベル	28	28%	
D 若干悪くなった	37	37%	
E 悪くなった	28	28%	

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて

回答	回答数	回答比率	景況感指数
A 良くなった	3	3%	36
B 若干良くなった	14	14%	
C 同レベル	28	29%	
D 若干悪くなった	33	34%	
E 悪くなった	20	20%	

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	4	4%	36
B 若干良くなった	11	11%	
C 同レベル	28	27%	
D 若干悪くなった	40	39%	
E 悪くなった	19	19%	

(4) 足元の景況感。昨年同期と比べて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなった	4	4%	36
B 若干良くなった	14	13%	
C 同レベル	30	29%	
D 若干悪くなった	34	32%	
E 悪くなった	23	22%	

(5) 4-6月の見通しについて

回答	回答数	回答比率	景況感指数
A 良くなる	1	1%	44
B 若干良くなる	15	15%	
C 同レベル	53	52%	
D 若干悪くなる	21	21%	
E 悪くなる	11	11%	

(5) 1-3月の見通しについて

回答	回答数	回答比率	景況感指数
A 良くなる	1	1%	44
B 若干良くなる	9	9%	
C 同レベル	60	61%	
D 若干悪くなる	23	23%	
E 悪くなる	5	5%	

(5) 10-12月の見通しについて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなる	4	4%	50
B 若干良くなる	26	25%	
C 同レベル	47	46%	
D 若干悪くなる	18	18%	
E 悪くなる	7	7%	

(5) 7-9月の見通しについて

回答	回答数	回答率	景況感指数
A 良くなる	2	2%	53
B 若干良くなる	27	26%	
C 同レベル	59	56%	
D 若干悪くなる	14	13%	
E 悪くなる	3	3%	

※景況感指数: 景況感を次の計算式で数値化

$$\text{回答率A} \times 100 + \text{回答率B} \times 75 + \text{回答率C} \times 50 + \text{回答率D} \times 25$$

4. ZSK景況感アンケート(2024年3月)/支部別集計表

(回答社数降順)

10-12月の状況と足元(1-3月)の景況感

支部	A.良くなった	B.若干良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった	計
東京支部			15	18	5	38
東海支部	1		8	4	5	18
九州支部	1		2	4	8	15
大阪支部			2	4	5	11
中国支部	1		2	2	1	6
東北支部			3	1	1	5
新潟支部	1		2	1		4
北海道支部			2	2		4
総計(全国)		4	36	36	25	101
		4		61		
		4%	36%	60%		

回答比率				景況感指数
A.良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった	
	39%	47%	13%	32
6%	44%	22%	28%	32
7%	13%	27%	53%	18
	18%	36%	45%	18
17%	33%	33%	17%	38
	60%	20%	20%	35
25%	50%	25%		50
	50%	50%		38
4%		36%	25%	30
4%	36%	60%		

(回答社数降順)

足元の景況感。昨年同期と比べて

支部	A.良くなった	B.若干良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった	計
東京支部	1	4	12	16	5	38
東海支部			4	7	7	18
九州支部	1		3	4	7	15
大阪支部			1	4	6	11
中国支部	1		2	2	1	6
東北支部			2	2	1	5
新潟支部	1		1	1	1	4
北海道支部			3	1		4
総計(全国)	1	7	28	37	28	101
		8		65		
		8%	28%	64%		

回答比率				景況感指数	
A.良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった		
3%	11%	32%	42%	13%	37
		22%	39%	39%	21
	7%	20%	27%	47%	22
		9%	36%	55%	14
17%		33%	33%	17%	38
		40%	40%	20%	30
25%		25%	25%	25%	38
		75%	25%		44
1%	7%		37%	28%	29
8%		28%	64%		

(回答社数降順)

4-6月の見通しについて

支部	A.良くなる	B.若干良くなる	C.同レベル	D.若干悪くなる	E.悪くなる	計
東京支部		4	22	9	3	38
東海支部	1	3	9	3	2	18
九州支部		3	8	1	3	15
大阪支部			6	2	3	11
中国支部		3	2	1		6
東北支部			1	4		5
新潟支部	1		2	1		4
北海道支部		1	3			4
総計	1	15	53	21	11	101
		16		32		
		16%	52%	32%		

回答比率				景況感指数	
A.良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった		
	11%	58%	24%	8%	43
6%	17%	50%	17%	11%	47
	20%	53%	7%	20%	43
		55%	18%	27%	32
	50%	33%	17%		58
		20%	80%		30
25%		50%	25%		50
25%		75%			56
1%	15%		21%	11%	44
16%		52%	32%		

◆ZSK景況感アンケート回収状況

	組員数	回答社数	支部回収率
東京支部	62	38	61%
東海支部	36	18	50%
九州支部	20	15	75%
大阪支部	17	11	65%
中国支部	6	6	100%
東北支部	5	5	100%
新潟支部	4	4	100%
北海道支部	5	4	80%
全国	161	101	63%

※景況感指数：景況感を次の計算式で数値化

回答比率A*100 + 回答比率B*75 + 回答比率C*50 + 回答比率D*25

ZSK景況感アンケート(2024年3月)/需要分野別集計表

(回答社数降順)

10-12月の状況と足元(1-3月)の景況感						
分野	A.良くなった	B.若干良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった	計
A.建築	2		16	16	10	44
E.店売り			4	9	5	18
D.産業機械	1		4	4	5	14
B.橋梁	1		3	3	1	8
C.建設機械			1	3	3	7
H.船舶/自動車/その他			4	1		5
G.重電			3			3
F.土木			1		1	2
総計		4	36	36	25	101
		4			61	
		4%			60%	

回答比率					景況感指数
A.良くなった	B.若干良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった	
5%	36%	36%	23%		31
	22%	50%	28%		24
7%	29%	29%	36%		27
13%	38%	38%	13%		38
	14%	43%	43%		18
	80%	20%			45
	100%				50
	50%		50%		25
4%	36%	36%	25%		30
4%			60%		


(回答社数降順)

足元の景況感。昨年同期と比べて						
分野	A.良くなった	B.若干良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった	計
A.建築		4	12	18	10	44
E.店売り	1		4	9	4	18
D.産業機械		1	3	2	8	14
B.橋梁			3	3	2	8
C.建設機械		2	1	1	3	7
H.船舶/自動車/その他			2	3		5
G.重電			2	1		3
F.土木			1		1	2
総計	1	7	28	37	28	101
		8			65	
		8%			64%	

回答比率					景況感指数
A.良くなった	B.若干良くなった	C.同レベル	D.若干悪くなった	E.悪くなった	
	9%	27%	41%	23%	31
6%		22%	50%	22%	29
	7%	21%	14%	57%	20
		38%	38%	25%	28
	29%	14%	14%	43%	32
		40%	60%		35
		67%	33%		42
		50%		50%	25
1%	7%	28%	37%	28%	29
8%			64%		

4-6月の見通しについて						
分野	A.良くなる	B.若干良くなる	C.同レベル	D.若干悪くなる	E.悪くなる	計
A.建築	8		20	12	4	44
E.店売り	3		12	2	1	18
D.産業機械	2		8		4	14
B.橋梁	1		4	3		8
C.建設機械			3	2	2	7
H.船舶/自動車/その他			4	1		5
G.重電			2	1		3
F.土木	1	1				2
総計	1	15	53	21	11	101
		16			32	
		16%			32%	

回答比率					景況感指数
A.良くなる	B.若干良くなる	C.同レベル	D.若干悪くなる	E.悪くなる	
	18%	45%	27%	9%	43
	17%	67%	11%	6%	49
	14%	57%		29%	39
	13%	50%			34
		43%	29%	29%	29
		80%	20%		45
		67%	33%		42
50%	50%				88
1%	15%	52%	21%	11%	44
16%			32%		


鋼板流通調査


(2024年1月)

※暦年・年度推移の月末在庫は最終月の在庫 (単位:ト)

	受入	成品切板 A	未切断鋼板 B	出荷計 A+B	月末在庫※	賃加工 C	切断量 A+C	
暦年推移	2014年	2,241,214	1,559,767	655,730	2,215,497	390,752	258,601	1,818,368
	2015年	2,013,033	1,461,880	581,006	2,042,886	360,899	277,199	1,739,079
	2016年	1,970,109	1,429,156	520,849	1,950,005	381,003	280,592	1,709,748
	2017年	2,031,642	1,472,558	551,573	2,024,131	388,514	268,722	1,741,280
	2018年	2,092,515	1,571,732	528,578	2,100,310	380,719	232,700	1,804,432
	2019年	2,065,877	1,488,734	518,625	2,007,359	439,237	196,942	1,685,676
	2020年	1,617,047	1,266,274	439,138	1,705,412	350,872	135,150	1,401,424
	2021年	1,870,147	1,371,712	469,343	1,841,055	379,964	127,696	1,499,408
	2022年	1,977,115	1,406,349	509,849	1,916,198	440,881	142,598	1,548,947
	2023年	1,739,445	1,357,980	459,675	1,817,655	362,671	131,573	1,489,553
年度推移	2018年度	2,140,617	1,583,050	532,464	2,115,514	408,303	219,065	1,802,115
	2019年度	1,941,027	1,441,556	493,623	1,935,179	414,151	187,147	1,628,703
	2020年度	1,624,770	1,252,311	436,079	1,688,390	350,531	126,270	1,378,581
	2021年度	1,950,255	1,388,858	483,828	1,872,686	428,100	129,483	1,518,341
	2022年度	1,901,446	1,408,368	505,983	1,914,351	415,195	141,205	1,549,573
月次推移	2022/8	157,892	112,095	37,589	149,684	475,082	12,154	124,249
	9月	155,244	120,760	43,456	164,216	466,110	12,452	133,212
	10月	165,049	122,880	43,886	166,766	464,393	12,497	135,377
	11月	154,948	125,460	44,122	169,582	449,759	11,756	137,216
	12月	148,712	120,449	37,141	157,590	440,881	11,820	132,269
	2023/1	135,526	105,856	37,763	143,619	432,788	8,819	114,675
	2月	147,041	112,218	41,512	153,730	426,099	10,739	122,957
	3月	155,439	124,716	41,627	166,343	415,195	13,165	137,881
	4月	146,143	119,005	37,442	156,447	404,891	9,357	128,362
	5月	141,105	112,548	36,955	149,503	396,493	8,271	120,819
	6月	149,119	120,564	38,122	158,686	386,926	10,081	130,645
	7月	144,396	110,895	37,158	148,053	383,269	10,302	121,197
	8月	135,470	105,719	35,084	140,803	377,936	11,522	117,241
	9月	149,397	114,576	38,374	152,950	374,383	11,833	126,409
	10月	152,838	112,209	41,726	153,935	373,286	14,344	126,553
	11月	146,021	111,927	39,776	151,703	367,604	13,340	125,267
	12月	136,950	107,747	34,136	141,883	362,671	9,800	117,547
2024/1	136,205	100,588	31,257	131,845	367,031	10,372	110,960	
前月差	▲ 745	▲ 7,159	▲ 2,879	▲ 10,038	4,360	572	▲ 6,587	
前月比	99.5%	93.4%	91.6%	92.9%	101.2%	105.8%	94.4%	
前年同月	135,526	105,856	37,763	143,619	432,788	8,819	114,675	
前年同月比	100.5%	95.0%	82.8%	91.8%	84.8%	117.6%	97%	

支部別集計(当月)	北海道	3,242	2,014	727	2,741	19,763	145	2,159
	東北	2,033	2,089	336	2,425	8,849	32	2,121
	東京	46,471	33,630	13,048	46,678	110,449	2,142	35,772
	新潟	2,405	1,953	645	2,598	8,546	33	1,986
	東海	18,498	12,935	4,551	17,486	53,661	1,155	14,090
	大阪	27,641	22,145	4,362	26,507	75,452	3,487	25,632
	神姫	16,023	12,019	3,013	15,032	23,631	436	12,455
	中国	6,681	5,095	1,199	6,294	18,452	1,020	6,115
	九州	13,211	8,708	3,376	12,084	48,228	1,922	10,630

組合員数162(152社10事業所)

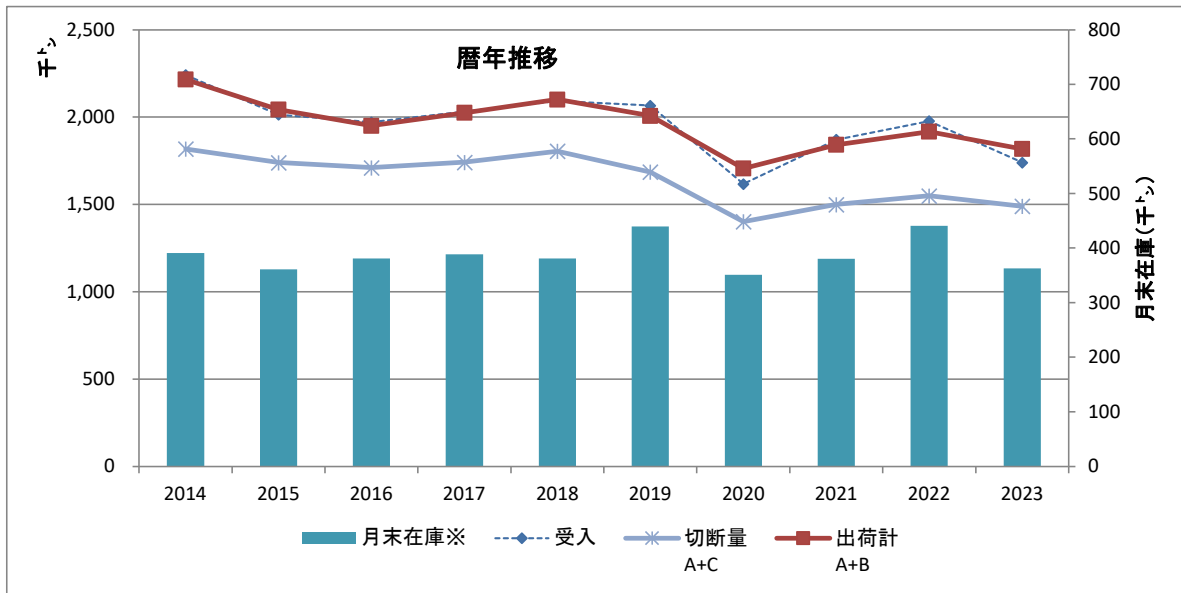

全国厚板シャリング工業組合

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館6F

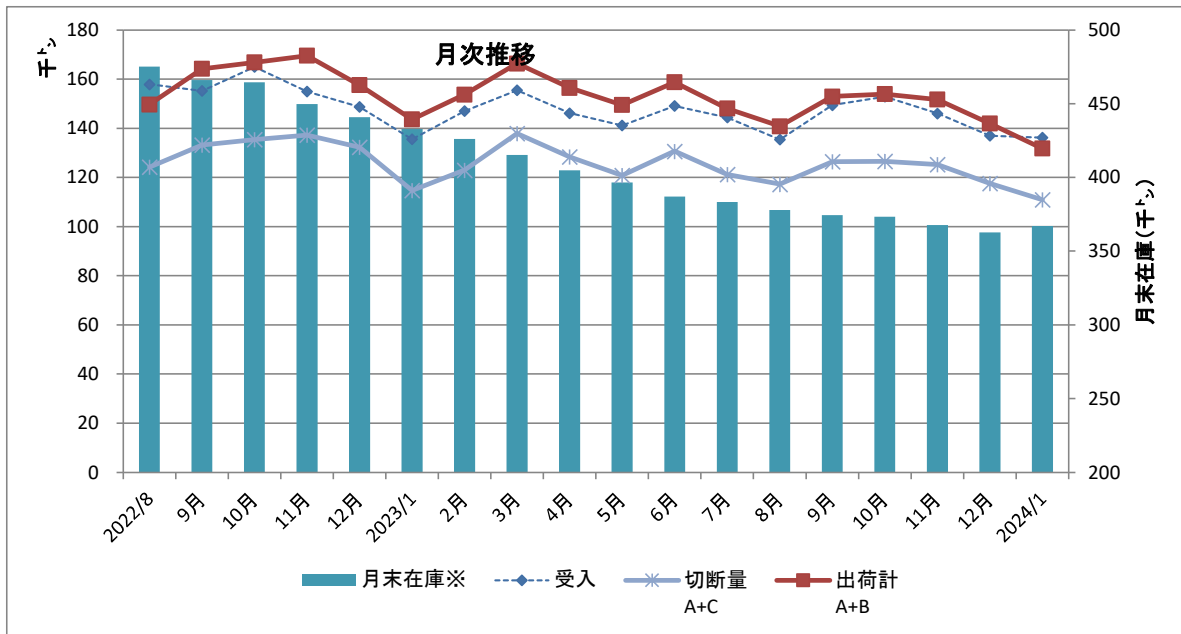
電話: 03-3669-0641 FAX: 03-3669-0658 URL: <http://www.tekkoo.net/zsk>

Version5

■ 暦年推移



■ 月次推移



■ 在庫推移

	全国	北海道	東北	東京	新潟	東海	大阪	神姫	中国	九州
8月	377,936	21,886	9,280	112,907	9,558	54,772	72,055	24,961	19,231	53,286
9月	374,383	20,908	8,987	113,059	9,480	54,055	72,997	25,299	18,315	51,283
10月	373,286	20,517	9,585	114,175	9,118	53,499	75,277	23,592	18,332	49,191
11月	367,604	20,002	8,892	112,755	8,966	52,940	75,163	22,785	18,204	47,897
12月	362,671	19,262	9,241	110,656	8,739	52,649	74,318	22,640	18,065	47,101
2024/1月	367,031	19,763	8,849	110,449	8,546	53,661	75,452	23,631	18,452	48,228

■ 在庫率推移

	全国	北海道	東北	東京	新潟	東海	大阪	神姫	中国	九州
8月	268.4%	634.9%	356.6%	218.2%	352.3%	328.8%	253.2%	158.4%	309.0%	403.3%
9月	244.8%	559.6%	349.8%	195.1%	337.5%	279.4%	244.8%	152.9%	274.0%	379.7%
10月	242.5%	569.3%	317.6%	203.2%	307.9%	263.7%	237.4%	149.7%	277.4%	356.3%
11月	242.3%	568.2%	317.1%	200.4%	313.1%	275.7%	238.8%	141.7%	292.7%	361.0%
12月	255.6%	790.1%	334.0%	210.2%	321.8%	266.8%	257.2%	163.5%	300.4%	367.3%
2024/1月	278.4%	721.0%	364.9%	236.6%	328.9%	306.9%	284.6%	157.2%	293.2%	399.1%

MEMO

A large area of the page is filled with horizontal dashed lines, serving as a template for handwritten notes or a memo.

